



フクシマの子ども未来を守る家

ニュース No. 44 15/12/11 発行

11月の保養家族

宮城県角田市より、お父さん、お母さん、子ども達（6歳、4歳、1歳）が稲生ハウスに滞在されました（11月21～22日）。加茂水族館を楽しんで帰られました！

3.11 放送 報道ステーション「行き場のない核のゴミ」録画上映会

12月5日（土）、6日（日）の2日間でのべ9名の参加者がありました！

上映会の感想

日本は70年前に原爆を投下され、そして原発事故。これだけ「核」に苦しめられてきたのに何を学んできたのでしょうか。不思議でなりません。何十万年も残る核のゴミ。世界は、地球はどうなるのか…。本当に私でさえ恐ろしく思います。これ以上「核のゴミ」を増やさないために原発は廃止すべきですし、政府と電力会社は責任を持つべき！

核のゴミの処分について触れずに原発再稼働を進めるというのはおかしく理解できないことだと学んだ。フィンランドでは原発を作るときに核のゴミの処分場まで決まらないと建設がゆるされないとのこと。また、フィンランド市民の方が原発稼働と核のゴミ処分をセットでとらえていることを知った。日本各地の方のインタビューもあったが、核のゴミについて無関心であることがわかった。私もまだまだ勉強不足だが、「今が良ければいい」「臭いものにふたをする」という考え方を捨てて、将来の子どもたちのこと、日本のことを考えられる大人になりたいと思った。

捨てる場所が決まってないゴミをさらに増やすという事がびっくりだ。人間が作ったものは必ず劣化するので、絶対安全だなんて言いきれない。放送の中でフィンランドと比較されていたが、日本がいかにおかしいか、異常であるかがはっきりわかった。

12～1月の予定

- 12月11日（金）放射能対策チーム主催学習会「放射能とくらし」
- 12月26日（土）佐藤幸子さん（福島市）を囲む会 18時～稲生ハウスにて
会費：夕食代として200円 ※要申し込み
- 12月27日（日）鶴岡市社会福祉協議会・フクシマの子ども未来を守る家共催
餅つき交流会「お供え餅をつくってみよう」10時～第3コミセン・ホールにて
※参加サポーターは9時集合
※参加されるサポーターは、12月18日まで高橋までご連絡ください。

○保養申込み家族1（福島市より）12月30日～1月2日 父母、高校生1人、中学生1人、小学生2人

◆冬期間は、稲生ハウスのみ稼働します。谷定・鳥居町ハウスは、雪囲いや水抜きをして、春までお休みです。

お問い合わせ先
080-6023-7490（守る家）